



吹越満

1965年生まれ、84年、フジテレビに参加、99年に退団、95年『悪作・罪と罰』、98年『Right Eye』野田秀樹作・演出作品をはじめ、数々の舞台に出演。また、89年から継続している『フキコシ・ソロ・アクト・ライブ』では、俳優らしからぬ実験的な(演奏)を展開。ひとり舞台の可能性を追求するソロ・パフォーマンスでもある。映画やドラマにも多数出演。主な出演作に『冷たい熱帯魚』(園子温監督)、『警視庁捜査一課9係』(ANB)、『運命の人』(TBS)、映画『宇宙兄弟』(森 義隆監督)などがある。

——今回、演出を手掛けることになった経緯と、今のお気持ちをお聞かせください。

野田さんから「三人芝居の作品を」ということでオファーをいただきました。最初は悩みましたが、今やらないと自らやることはないだろうと、これもいいタイミングかと思い引き受けました。もともとロベール・ルパージュ(『ポリグラフ』初演の作・演出)も好きで、いつかあんな舞台をやりたいと思っていたんです。でも、いざやるとなるとどうしたら違うふうに見えるのか、考えるものですね。

芝居を超越した「舞台表現」

「フィジカル・シアター」第一弾を飾るのは、
名優 吹越満が演出を手掛ける『ポリグラフ』。肉体と精神、空間と映像、あらゆるものを駆使した新しい舞台表現が、ここに生まれる ——。

——台本を読んだ時の印象は？

脚本家が舞台でやるためのお話を作り上げたのではなく、原作者なり役者なりが、稽古場で作りながら記録していった台本、という印象を受けました。書いてあることがすごく具体的で、しかも映像の指定までしてあるんですよ。そういう舞台の脚本ってあまりないですよね。最初から映像を使っているって書いてある。「俺に向いてるかも」と思いました。

——“吹越演出”により、作品にどんな変化がありましたでしょうか？

何か付け足したり、少し入れ替えたりするかもしれないです。カナダのお話なので日本人がやる時点で説得力を出すのは難しいところもありますが、これはこういう設定だからというところで終わらずに、ちゃんと考えたいと思っています。

あと、無駄と思えるものも入れていきたい。「この人たち何やってるんだろ？」っていうのが面白いと思うので。こうした作品作りの試行錯誤は、僕の中では「モノを創る」というより、世の中にあるモノの中から「探している」という感覚なんですよ。これから共演者のお二人と一緒に、探しながら作っていくつもりです。

——「フィジカル・シアター」の魅力や可能性についてはいかがですか？

絶対に必要なのはお客さんの想像力。それを信用しなきゃいけない、というか、信じています。受け手の想像力が大きければ大きいほど、舞台から客席に伝えたことが、より大きくなって自分のところに返ってくると思います。

——今作への意気込みをお聞かせください。

舞台や映像、色んなものに携わった経験上、映像は羨ましいなって思うんです。映像は画面に見せたいものが投影されていて、確実に見せられるんですよ。でも、舞台の場合は二人が上手の端と下手の端にいた時に、お客さんはどっちを見ているかわからない。人がいないところを見ているかもしれない。そこが映像との大きな違いだと思います。今回は映像を使用した舞台になるので、そこを何とかしたい。舞台で映像を使うことの必然性を見つけられるよう、挑戦していきたいです。『ポリグラフ』だからこそ出てくるものが、生まれるものが、必ず何かあるはずですからね。お芝居の域にとどまらず、舞台表現としてこの作品を作り上げられればと思っています。

鶴屋南北戯曲賞受賞、本谷有希子の代表作遂に再演!

再演を熱望されていた本谷流シリアスコメディが、2006年の初演から6年ぶりに全く新しいキャストで蘇ります。04年『腑抜けども、悲しみの愛を見せる』、05年『無理矢理』以来3度目の劇団、本谷有希子への参加となる菅原永二。本谷有希子原作の映画『乱暴と待機』ではジャージとメガネのネガティブヒロインを演じた美波。09年の舞台『来来来来』以来、2度目の劇団、本谷有希子への参加となる佐津川愛美。劇団『サンプル』を率いる、岸田戯曲賞

作家にして俳優としても活躍する松井 周、そして舞台も映像も抜群の個性と独特の存在感を光らせる片桐はいりと、本谷有希子ならではのキャストが揃いました。生徒の自殺未遂を機に、放課後の職員室は修羅場と化す。いじめのせい?教師のせい?人格者と評判の女教師の裏の顔は一。責任転嫁と疑心暗鬼のスパイラルの果てに、「トラウマ語り」の欺瞞を鋭くえぐる、快感ブラックコメディ!ぜひ劇場で体感してください。



劇団、本谷有希子 第16回公演 遭難、

10月2日 [火] ~ 23日 [火] シアターイースト

作・演出:本谷有希子 出演:菅原永二/美波/佐津川愛美/松井周/片桐はいり

| チケット料金 | 【前売指定】一般:5,800円/ヤングチケット:3,500円 ※未就学児の入場不可

10月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
14:00			★	●	●	●	●	●	▲	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	▲	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

▲=ビデオ撮影のため、場内にカメラが設置されます。予めご了承ください。 ★=ポストトーク等のイベントあり

| お 問 合 せ | ヴィレッタ 03-5361-3027(平日11時~19時)

主催:ヴィレッタ

ヒトコト

予期せぬキャスト変更により大きく舵を切ることとなった『遭難、』ですが、「男性である菅原永二さんに女教師里見をやってもらいましょう!」と、決断に踏み切りました。男性の体を通すことで浮かび上がらせることのできない女の何かがある、と信じています。どうぞお楽しみに!



本谷有希子

短篇シリーズ「図書館的人生」まずは上巻!

日常の裏側に潜む異界を描く、気鋭の劇作家・前川知大とイキウメによる最新作です。劇団結成より今年で10年。10年目の最後の公演は、オムニバス形式の短篇シリーズ「図書館的人生」から、選り抜きと新作を織り交ぜての上演となります。「図書館的人生」では、これまで、「Vol.1 死と記憶に関する短篇集」(2005)、「Vol.2 盾と矛」(2008)、「Vol.3 食べもの連鎖」(2010)、と3作全13本の短篇を上演。

ハードSF、スラップスティック・コメディ、オカルト・ホラーなど、カラフルに並べたショーケースであり、実験の場でもある、劇団のライフワークともいえるシリーズです。本作は本年の読売演劇大賞で最優秀演出家賞・グランプリを受賞した前川知大による、1年ぶりの演出作品でもあります。どうぞご期待ください。



イキウメ The Library of Life まとめ* 図書館的人生(上)

11月16日 [金] ~ 12月2日 [日] シアターイースト

作・演出:前川知大 出演:浜田信也、盛隆二、岩本幸子、伊勢佳世、森下 創、大窪人衛、加茂杏子、安井順平/菊池明明、西山聖了

| チケット料金 |
【前売指定】4,200円
【当日指定】4,400円
| お 問 合 せ |
イキウメ 03-3715-0940

11・12月	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	12月	2	
13:00		●	●					●	▲	●							●	●
14:00				休演						休演		●						
18:00		●						●	▲								●	
19:00	●							●	●			●	☆	●				

主催:イキウメ/エッチビー

▲=ビデオ撮影のため、場内にカメラが設置されます。予めご了承ください。 ☆=追加公演

ヒトコト

演目は旧作、新作、蔵出しから準備中ですが、絞ったものすでにトータル4時間。さすがに長いので更に絞って4、5作品、2時間ちょっとでまとめます。とりあえず全部稽古場へ持って行って考えよう。ご期待ください。



前川知大



3×3-① ポリグラフ 嘘発見器

12月12日 [水] ~ 28日 [金] シアターイースト

iii x 三
3人芝居3本シリーズ

脚本・構想:マリー・ブラッサール/ロベール・ルパージュ 演出:吹越満 訳:松岡和子

出演:森山開次/太田緑 ロランス/吹越満

| チケット料金 | 【前売指定】一般:5,000円/高校生割引:1,000円/65歳以上:3,500円/25歳以下:3,000円

12月	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
15:00	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
19:30	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

○=聴覚障害をお持ちの方に字幕提供/目の不自由な方への舞台説明あり

| お 問 合 せ | 東京芸術劇場ボックスオフィス 03-5391-3010(休館日を除く10:00~19:00)



森山開次



太田緑 ロランス



吹越満

主催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団) 東京都/東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人東京都歴史文化財団)